

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示。朝の申し送り時唱和し、実践に繋がるよう努力している。また、6月に理念に沿った内容で尊厳についての研修を行った。	理念を各ユニットに掲示し、申し送り時に全員で唱和するなど、その意識化と共有化に努めています。また、「尊厳」についての研修を行い、実践の中での具現化に繋がっていることが記録から確認できました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の方が畑や野菜の手入れに来てくれたり、施設行事に参加してもらっている。収穫したお芋を使っておやつを作り、外部からフラダンスの慰問に来てもらい地域の方と一緒にみると言った行事を行った。	自治会への加入を始め、地域の方々が事業所の畑や野菜の手入れに来てくれたり、防災訓練等にも多数参加されるなど、地域に根づいた日常的な交流が活発に行われていることが確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、施設敷地内の工事に伴い、毎年恒例の地域の方に向けた『認知症フォーラム』が開催できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の報告に中、身体拘束についての理解や毎回施設内で緊急時やむを得ない場合に行ったことについて報告し、理解してもらっている。また、頂いた意見を事業所内会議で報告している。	消防団長や公民館長等地域特有のメンバーで構成される運営推進会議では、事業所の活動報告を始め、業務上の事故、身体拘束(施設等)、防災等について活発な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂き、事業所の状況を理解してもらい、また地域の方に対しても助言していただいている。	運営推進会議での意見交換を始め、身体拘束に関する助言等日常的な課題についても丁寧な指導を頂いていることが確認できました。また、外部評価結果についても共有されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルを常に確認できるようユニットにおいている。また、法人研修を行い、再度見直し、また勉強会を行った。緊急やむを得ず一時的に身体拘束する場合のルール作りをしている。	身体拘束廃止委員会、職員研修会等法人全体としての取り組みに加え、事業所内職員会議(グルッポ会議)、ユニット会議においても身体拘束をしないケアに取り組んでいます。また、やむを得ない場合に備えてのルール作りも行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修として、身体拘束排除と共に虐待についての研修を行い、日々の介護の中で問題はないかなど振り返りの機会ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が施設従事者向けの研修を受け、その後事業所内で研修報告を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明している。利用料金や職員体制の変更などその都度文章にして、口頭で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度は全家族に招待状を出し、交流会を行っている。その際アンケートにこたえもらったり、またその際に事業説明を行った。アンケート結果は運営推進会議で報告した。	毎年、家族との交流会を実施し、事業所への理解を深めていただくと共に、面会時での相談や要望に応じています。また、職員のキャッチコピー入りの名札を作成し、家族が気軽に相談できる雰囲気づくりにも努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニットリーダーと管理部でまずリーダーが聴いている意見を聞き出し、ユニット会議で討議また、意見を聞き出し、事業所全体のグループ会議で決定事項を報告している。	毎月実施されるユニット会議で職員から出された意見、要望等を討議し、決定事項をグループ会議で報告し、実施に移しています。また、年一回、代表者等との個人面談も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回自己採点、上司採点を行ったうえ個人面談を行い、良い点、改善点を話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修を年6回行い、事業所研修は毎月行っている。事業所研修は事前にリーダー、計画作成者と研修内容を話し合いその時に問題となっていることを研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全体研修や職員の代表者が外部の研修に参加し、質の向上を計っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にケアマネなどから情報収集を行ったうえで、初回面談で本人の思いをゆっくり聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にケアマネなどから情報収集を行ったうえで、家族から施設入所に至るまでの話しを労いの気持ちを持ちながら要望や意向などを聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からの聞き出しは難しいケースが多く、それまで利用していたサービス事業所から情報収集し本人の意向を予測し、家族に確認しながら本人にとって必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、簡単な掃除などを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を細目に報告また相談し、アドバイスを受けながらお互い安心できるようにしている。また、行事と一緒に参加してもらい、家族とも絆を深めてもらえる場を作った。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会できるようにし、また定期的に来るはがきは自室に貼り、紛失せずいつでも見られるようにしている。また、知人の方が面会に来た際は、家族に報告している。	家族から定期的を送られてくる写真入りはがきを自室に貼ったり、利用者の知人が面会に来た際にはその様子を家族に伝えるなど、馴染みの関係が途切れないように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日体操やレクに全員が参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族と職員との交流会行事にOBとして参加してもらうよう案内を出し、参加してもらっている。看取り時、退所され自宅で過ごされた方には、面会に細々伺い、家族に助言することもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	半年に一度はケアプラン作成し、その際意向について本人から聞き取れない場合は、こうではなかろうかと思う事を一度して見て表情をみて、よければ取り入れることをユニットスタッフと相談して行っている。	表情や態度・言葉から、本人の思いや意向の把握に努めています。また、家族からの要望に応え、個別ケアの内容を面会時やプランの見直し時に分かりやすく説明していることが今回のアンケートからも確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、居宅介護支援事業所、またそれまでに利用していたサービス事業所からも情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の表情や発言、行動などを常に意識し記録するように努めている。また特別なことは申し送りでも共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価月には担当者会議を行い、家族と計画作成者、またユニットスタッフと計画作成者で行うことが殆どだが、ユニットスタッフには会議録を作成し必ずみってもらうようにしている。また出た意見をプランに反映している。	ユニット会議に本人、家族の意見、要望を持ち寄り、計画作成担当者が中心となり介護計画を作成しています。適宜、アセスメント、モニタリングを実施し、現状に即した介護計画の見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に排泄や食事、ケア内容、1日の過ごし方など見やすい様に工夫している。特別事項は特記に記載し、共有しやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化や認知症状によってケアプラン変更に伴ってサービス内容の変更を行っている。また、外部から家族の意向で訪問リハを利用されている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用したり、お宮参りをしたり趣味や意向に沿っていきがいと思えることに支援を個別に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日がかかりつけ医の往診があり、診察時状態報告をしたり、家族の意向を主治医に伝え、状況によっては主治医から家族に説明をし、家族の意向の下、他の医療機関に受診することもある。	家族とも連携し、かかりつけ医への受診が行われています。付添は、原則として職員が行い、必要に応じて家族も同行しています。受診情報は家族、職員が共有し、適切な医療が受けられるよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の皮膚状況や排便など日々の変化について、看護師や訪問看護師に相談し、処置をもらっている。また必要時主治医に助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との共通の連絡票があり入院時には直ぐにこちらから提供し、病院と常に連絡を取り合い、認知症状が悪化しないよう早めの退院を進めている。そのために退院時には状況によっては訪問看護を利用し安心して退院できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を随時確認しながら医療と連携し『看取り』と診断された場合、再度意向を聞き施設内でできることについて説明、同意を得ている。『看取り』の診断は主治医から家族に説明する際は必ず計画作成者が担当者会議として同伴している。	契約時に、重度化や終末期の方針について説明と話し合いが行われています。状況の変化によって、家族、医療機関と協議し、サービ担当会議で方針を共有、確認し、看取りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回救命士に来てもらい、緊急時の対応を実践指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を地域の方にも参加してもらい行っている。その内1回は夜間想定避難訓練を行った。	防災避難訓練(夜間想定も含む)にあたっては、自治会の回覧板を通して、地域の方々に協力を要請しています。推進会議のメンバーに消防団長もおり、誘導、見守り要員として、毎回、およそ10名の参加を頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人研修、事業所研修を行った。事業所内研修では、実際にどんなことに尊厳が守られていないのかアンケートを取り、解決するにはどうしたらよいかグループワーク研修を行った。	「尊厳を守る」という観点から、法人全体での研修に加え、事業所研修が行われています。また、一人ひとりの人格を尊重した丁寧な言葉かけに努めています。	研修は行われていますが、実践の中で、今一つ意識づけ(徹底)の弱い所があるようです。言葉かけや接し方について日々検証し、実践の中で活かしていく取り組みが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者への声掛けをする際、本人の思いが 出くような声掛けができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその時の気持ちや気分に合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪屋、美容院に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきを時々職員の見守りのもと行ったり、食器洗いやお盆拭きをしてもらっている。	栄養士の立てた献立をもとに手作りの料理が提供されています。野菜の皮むきやお盆拭き等を利用者と職員が一緒に行っており、楽しい雰囲気作りに努めていることが写真等で確認できました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分摂取量を個々にチェックし、毎月のモニタリング報告の中で見直しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に利用者それぞれに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	『看取り』と診断された方以外の全ての方にトイレでの排泄を促している。尿意の訴えがない方にはその方に合った排泄パターンを知り定期的にトイレ誘導をしている。	個別に作成されたトイレ誘導チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ、誘導、介助等、排泄の自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認し、食事や水分量などをチェックし排便が定期的にあるように利用者それぞれに工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者それぞれの身体状態や希望に沿って入浴支援を行っている。	週3回の入浴を基本にしながら、利用者のその日の体調や希望に応じた入浴支援が行われています。檜風呂でのゆっくりとした入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を増やしている。利用者それぞれに合わせた入眠時間に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧表を作成して、薬名、量、内容などがわかるようにしている。また、臨時処方や内容が変わった際には、指示書や連絡ノートに記載し周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若い頃の生活状況などを入所前に本人、家族に聞き出し、得意なことに取り組んでもらう機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外に散歩に出かけたい時はその都度一緒に歩いたり、家族と定期的な外出を楽しめる方、また家族と職員同行で自宅周辺までドライブを楽しむこともあった。全員でのドライブ行事は今年度雨天で中止している。	本人の希望により、散歩したり、自宅周辺までドライブをしたり、中には、家族付添での外出、外泊なども行われています。	施設行事として、季節毎のレクリエーションを兼ねたドライブや外食など、家族や地域の方々と協力しながら、外出の機会を増やしていく取り組みが期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持たせていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で手紙を書くことができないが、手紙が来た時は一緒に読み、紛失しないよう自室の壁に貼っていつのみられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく整備し、季節の花を飾ったり、思い思いに過ごせるようにしている。また、季節に応じた壁面を飾っている。	閑静で、自然豊かな環境の中で、リビングには明るい日差しが降り注いでいます。共用空間は、季節の花や写真が飾られ、壁面には季節に応じた写真等が掲示され、利用者が心豊かに暮らせるような配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中や廊下の一角にソファやベンチがあり、思い思いにくつろげれる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の段階で本人の生活習慣に合わせた居室の整備をしている。また、家族との写真を飾ったりそれぞれの生活空間になっている。	自宅で使い慣れた布団やタンスを持参しており、家族から送られてきた写真等を貼るなど、家族と相談しながらの居心地よく過ごせるような工夫がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビングなど明るく広々とし活動的に過ごすことができるようにしている。		